

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001617		
法人名	医療法人 西口整形外科		
事業所名	グループホーム千音寺 2Fかほりユニット		
所在地	名古屋市中西区富田町大字千音寺字間渡里2883番地		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	平成29年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Jigvosyo_Cd=2371001617-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を職員全員が共有し、その人らしさを尊重し、自立に向けた支援を行う様に努めている。又、家族との関わりを大切に、悩み等の相談には常に対応し、家族の意見を重視している。定期的にホーム便りを発行し、ホームでの生活の様子も紹介している。母体の法人が整形外科診療所を開設している医療法人であり、医療リハビリには力を入れている。又、介護事業も通所リハビリテーション、認知症対応型通所介護、老人保健施設等と運営しており多機能となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、併設している医療機関が運営していることもあり、医療面での支援が従事していることがホームの利点でもある。利用者の健康面での日常的なチェックをはじめ、体調不良等の際には受診支援が行われており、柔軟な対応が行われている。ホーム建物内には、デイサービスが併設されていることで、夏祭り等の合同の行事が行われており、利用者の楽しみと職員間の連携の機会につながっている。ホームでは、地域の方との関係づくりにも取り組んでおり、地域包括支援センターと協力関係づくりながら、地域包括支援センターで行われている独居高齢者への支援事業に、ホームも協力する取り組みが行われており、地域貢献につながる取り組みが行われている。また、職員間で連携しながら、利用者一人ひとりに合わせた支援につなげるミーティング等の取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	共同生活室に理念を掲示し、ミーティング時に唱和し、職員一同が、理念を共有し職務に当たるようにしている。	開設時に介護理念をつくっており、ホームの基本理念としている。職員間で理念の内容を振り返るような取り組みが行われている。また、リビング内に理念の掲示が行われており、職員間の共有につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩を兼ねて、近隣のお店に出掛け、地域の方とのふれあいを大切にしている。地域の小中学校の体験学習の受け入れや、行事等でボランティアの訪問もある。	地域の学校で行われている運動会や地域のふれあいまつりにホームからも参加している。また、併設のデイサービスを開催している夏祭り際には、地域の方に案内を行っており、交流の機会につなげている。	関連のデイサービスでは、カフェの取り組みが予定されている。関連事業所との連携を深めながら、地域の方にホームを知ってもらう取り組みにつながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の鍵預かりサービスモデル事業を通して地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議では、ホームだよりを配布してホームのサービスの取組み、現状を報告している。又、意見交換を行いサービスの向上に活かしたり、夏祭り等の行事にも参加していただいている。	会議には、関連の居宅介護支援事業所の職員も参加しており、地域の困難事例に関する情報交換等にもつながっている。また、会議を通じて行事である夏祭りを見てもらう機会をつくり、ホームへの理解を深めてもらう取り組みも行われている。	会議に合わせた資料を用意することで、会議の内容を出席者に分かりやすく伝えることができるため、今後の工夫等にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	定期的に区生活保護担当者の訪問を受け利用者の近況報告を行っている。運営推進会議には、いきいき支援センター職員に参加して頂いている。市町村で開催される研修会等へは積極的に参加している。	生活保護の方の受け入れが行われており、市の担当職員との情報交換等が行われている。また、地域包括支援センターが行っている独居高齢者の支援事業にホーム協力する取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部からの進入等の安全面を考慮し、玄関のみオートロックし、モニター管理しているが、その他は基本的に施錠しないようにし、身体拘束しないケアを心掛けている。	ホーム内は利用者の移動が自由に行われていることもあり、関連事業所の職員との連携が行われている。また、外部研修会に参加した職員による回覧研修の取り組みが行われており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加し、資料等を回覧し職員間で知識を共有し、事業所内で活かすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在対象者はいないが、研修に参加し、理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には十分な時間をかけ説明を行い、理解・納得の上契約していただいている。報酬改定時には内容等を書面にし、説明の上同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時に意見や要望を聞き、毎日の生活の中に取り入れている。又、入居者のホームでの様子を伝え、情報を交換したりし、夏祭り等の行事に参加して頂いたりして家族との関係構築に努めている。	行事の際には家族にも案内を行っており、交流につなげている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも法人の担当職員による対応も可能である。また、定期的な便り等を直接手渡すことで、面談につなげる取り組みも行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	二ヶ月に一度ミーティングを開催し、意見交換や提案等を聞く機会を設けたり、連絡ノートを利用し情報交換を行い、運営に反映させている。	ユニット会議の他にも、日常的な申し送りの時間を確保していることで、職員間での情報交換の機会をつくり、ホームの運営への反映につなげている。ホーム管理者が把握した職員からの意見等は、法人の事務長に報告され、必要な対応が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護労働者雇用管理責任者を置き、勤務状況等を把握し、就労環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修等には積極的に参加し、資料等職員間で共有し、研修内容を他の職員にフィードバックし、質の高いケアを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修参加の時、同業者との意見交換を通じて交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	コミュニケーションを通じて本人の希望や要望等に耳を傾け、本人が安心して話ができるような雰囲気を保てるように心掛けて接するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約に至るまでの間に家族からの希望や要望など話をする機会を設け、入居後は、「ホームの様子を伝え相談しやすい」関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前より情報を収集し、その時々で何が適切か本人のADLや性格趣向なども考慮し、より適切なサービスを行える様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事はなるべく本人にやってみようとして支援し、共同生活という認識を持って頂く様、食器拭きや洗濯たたみなどやってみている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と共に問題を解決したり、又、買い物を頼んだり、行事に参加して頂ける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	法人内の認知症デイサービスと合同の夏祭りに参加して交流を深めている。家族等の支援を受けながら外出している。	ホーム建物の隣に医療機関があることで、利用者の入居前からの関係の方がホームに訪問する機会が得られている。また、家族との食事や買い物を通じた外出が行われており、利用者の中には親族の冠婚葬祭を通じた交流も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションなどで利用者様同士が関わり合える様支援を行っている。又、定期的に席替えをして、一人ひとりが孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの終了が看取りという形になる事が多いが、退所された場合は、その後も家族・本人の経過等、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の様子等から、出来るだけ本人の思いや希望を取り入れ個性を大切に生活できる様、支援している。	日常的に職員間でのミーティングの時間をとっており、利用者に関する職員からの気付き等の情報を共有するよう取り組んでいる。また、日常的なカンファレンスが行われているが、2か月に1回は職員全員による検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族より生活歴を聞いたり、本人からも機会を作り、ゆっくりと話をする時間を持ち、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員間で、情報を共有し、一人ひとりの状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	二ヶ月に一回の職員のミーティング時に介護計画について話し合い、現状の見直しやアイデアを出し合っている。 又、必要に応じて随時見直しを行っている。	介護計画は6か月で見直しが行われており、モニタリングについても見直しに合わせて実施している。また、職員間で介護計画の項目に合わせて記録を残すよう取り組んでおり、日常的なチェックと変化等の把握につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践を個別記録に、記入し職員間の気づきや感じた事などは申し送りや連絡ノートにより全職員が情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況に応じて、対応できることを柔軟な姿勢での支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、地域の方や民生委員の方等から情報や意見を頂いている。又、近隣の小中学生の訪問を受け交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医による訪問診療は毎月二回あり、24時間対応可能である。又、本体施設である整形外科受診、リハビリ等行っている。必要に応じて眼科、歯科の受診も行っている。家族の協力も得ながら適切な医療が受けられる様に支援している。	関連の医療機関とは別の医療機関を協力医としており、定期的な訪問診療と状態変化に合わせた対応が行われている。また、関連事業所の看護職員が日常的に利用者の健康状態に関する把握が行われており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の体調変化等報告し、緊急時や変化が見られた際には相談し指示を受けたり、適切な処置をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と共に症状や日常生活の様子を病院関係者に伝え、退院時には、病院からの情報提供や相談を受け、退院後の生活がスムーズに行われる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期に関するホームの方針を説明し、容態に変化がある場合はその都度、主治医や家族と話し合い方針を共有し支援している。終末期になった場合は十分に説明同意の上、同意書を作成している。	ホーム関連に老健があるが、ホームでも重度の方の受け入れが行われており、医療面での連携を深めながら、ホームでの看取り支援が行われている。また、利用者の身体状態に合わせた家族との話し合いや職員間での情報の共有等が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や自己発生時については、全職員で話し合い、マニュアルにもとづき初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防設備点検業者の協力の下、年二回の消防訓練を実施している。地域住民の一時避難受け入れも検討している。	年2回の避難訓練が行われており、ホームの対応に関する職員間の連携を深める取り組みが行われている。非常災害時の地域の方の受け入れも想定する取り組みも行われている。なお、備蓄品については、検討を重ねている段階である。	現状の避難訓練については、ホーム単独での実施となっている。地域の困難者の受け入れを想定しながら、ホームが関連事業所と併設されている利点を活かした訓練の実施にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	抑れあいになり、不快に感じるような声掛けにならない様に職員同士注意しあうようにしている。特に声の大きさには注意するように心掛けている。	職員間で馴れ合いにならないように状況等を見ながら、職員同士で注意する等、日常的な注意喚起等の取り組みが行われている。また、接遇面に関する外部研修に職員が参加した際には、ホームに持ち帰り、職員間で共有するように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの様子に常に気を配り、本人の希望を汲み取りながら、出来るだけ自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活のリズムや体調に合わせて、自由に過ごせるように努め、レクリエーションなども採り入れながら希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に二回の理美容サービスを利用していたいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の希望は栄養士に伝え、献立に反映させ作成している。時には宅配サービスを利用し、利用者様の好みの物を注文したり、おやつも一緒に手作りしたりする時もある。又、テーブル拭きや、食器拭きなども手伝って頂いている。	食事については、法人の関連事業所の厨房から提供されており、利用者の身体状態等に合わせた食事形態の提供も行われている。また、おやつ作りについては、ホーム内でも行われており、利用者の楽しみにつなげている。	現状、ホーム内のキッチンを活用することが限られている事もあるため、可能な範囲でもキッチンを活用できる機会を増えることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の量や水分量等は個別の介護記録に記入し、体調管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後一人ひとりに声掛けをして口腔ケアをして頂き、一人で出来ない方は、職員が手伝い清潔保持に努め、入れ歯も毎日消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録により、一人ひとりの排泄リズムを把握し、声掛けなどをしながら介助を行っている。立位が不安定な方も出来る限り、ご自分でできる様、手すり等を利用して介助にあたっている。	利用者一人ひとりの排泄記録に残しており、日常的な申し送りと合わせて職員間での情報の共有につなげている。日常的な野菜を摂ってもらうようにする等の取り組みが行われており、排泄状態の維持に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄記録を毎日チェックし、便秘気味の方には、水分を多めに飲んで頂きマッサージ、服薬等に対応している。食事バランスよく食べるように声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	基本的には、2・3日に一回の入浴を実施しているが、その日の体調や希望を聞きながら支援している。浴槽に入れない方は、リフト浴にて対応している。	ユニット毎に複数の浴室が設置されており、一般浴槽の他にもリフトを備える等、利用者の身体状態に合わせた対応が行われている。また、入浴の際には入浴剤を使用したり、季節に合わせた入浴の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その日の体調を確認しながら、仮眠等の休息をとって頂いたり、安心して気持ちよく眠れるよう、湯たんぽ等を利用したり、室温や水分補給にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診記録にて投薬の内容や変更・用法等、全職員が確認し把握している。間違いの無い様、薬のセットは二人体制で確認し、確実に服薬する様支援している。症状の変化があれば、看護師や主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	手芸やパズル・貼り絵等楽しんで頂ける様支援している。又、食器拭きや洗濯物をたたんだり、おやつ作り等役割を持っていただいている。ご自分で購入されたフルーツなどは、ご自身で皮などをむいて頂き、出来る事はやって頂く様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近所のお店や、喫茶店等へ出掛けたり天気の良い日は散歩に出掛け、家族にも協力して頂き面会時等に外出出来る様に支援している。	近隣の散歩をはじめ、関連の医療機関へリハビリに出かける等、日常的にホームから外出するように取り組んでいる。また、季節に合わせた花見をはじめ、喫茶店や個別の希望に合わせた買い物等で出かける取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には事業所で管理しているが、希望される場合は多少のお金をご自身で管理して頂き、買い物時に職員見守りの上で支払いまでを行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望時には、職員が同行し診療所外来ロビーの公衆電話を利用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は毎日清掃し、清潔に心掛けている。又、リビングの壁等に他の利用者様と一緒に製作した作品を飾り、毎月季節感を出す様にして、居心地欲過ごせるような工夫をしている。	リビングはゆったりとした広さが確保されており、ソファや畳コーナーの設置等、利用者が寛ぐことができる場所が確保されている。また、季節に合わせた飾り付けが行われている他、利用者の作品や行事等の写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	色々な方と交流できる様リビングのテーブル席は三ヶ月に一度席替えを実施し、テーブルには名前を貼り、個人の居場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、使い慣れたタンスや本人が作った手芸品や置物などを飾り居心地良く過ごせる様にし、又、暖簾をつける等してプライバシーを確保している。	居室には、利用者の意向等に合わせて、家具類やテレビ等の持ち込みが行われている一方で、シンプルな雰囲気のある居室もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者により家族の写真や趣味の物を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの力を活かし、できる事はやって頂く様にし、それに伴い職員は、危険のない様に常に利用者様の状況を把握するようにしている。		